

# 人格形成を規定する要因分析（Ⅲ）

——Y-G検査に現れた出生の順位と同胞の性差の影響について——

## A Study of Factors Effecting on Development of Personality (Ⅲ)

—— On the effecting of the order of the birth and the sex-differences of brother and sister on the result in Y-G Test ——

高橋正臣

### I 研究目的

本研究は、人格形成を規定する要因分析に関する一連の研究のうち、特に出生の順位と、同胞の性差が、性格特性の形成にどのような影響を与えているかを、次のような仮説の検証という形式で、YG検査を通じて明らかにしようとした。

性格形成を通して、心理学的環境条件に組みこまれる要因として、家族制度、社会構造、親の育児態度、きょうだいの人間関係、遊びの構造等が指摘されるが、これらが具体的結果として、次の条件内において性格形成に相応の影響を与えるであろう。

1. 長子か末子か、ひとりっ子か。
2. 同胞が異性であるか同性であるか。

### II 研究手続き

#### 1. 研究対象

研究対象は、昭和49年、50年度に入学した芸術短期大学学生のうち、教育心理学受講の女子学生（昭和49年度入学者中〇％、50年度〇％）299名〔表1参照。研究対象の特性については、文献(1)を参照〕である。

表1 研究対象（数字は人数）

	S.49年度	S.50年度	小計	計
美術専攻者	101	111	212	299
音楽専攻者	44	43	87	

#### 2. 研究方法

研究対象に、矢田部一ゲルフォード性格検査（Y-G検査）を実施。実施の期間は、各年度とも、大学入学後半年から1年までの期間である。

### III 研究結果と考察

1. Y-G検査によって測定される性格特性は、次の12である(2)。

#### Depression :

たびたびゆううつになる、理由もなく不安になることがあるなどの、陰気な、悲観的気分や、罪悪感の強さを示す特性。

#### Cyclic Tendency :

気が変りやすく、感情的で、物事に驚きやすい情緒不安定、気分変易性の強さを示す特性。

#### Inferiority Feelings :

劣等感に悩まされる、自信の欠乏などの自己の過小評価、不適応感の強さを示す特性。

#### Nervousness :

神経質で心配性、いらいらするなどの、ノイローゼ気味の強さを示す特性。

#### Lack of Objectivity :

ありそうもないことを空想する、ねつかれないなどの空想性、過敏性、主観性の強さを示す特性。

#### Lack of Cooperativeness :

不満が多い、人を信用しないなどの不満性と不信性の強さを示す特性。

#### Lack of Agreeableness :

気が短い、正しいと思うことは人にかまわず実行する、人の意見をききたがらないなど、攻撃的な強さを示す特性。この特性は、情緒不安定特性(D, C, I, N)と結合すると、社会的にも活躍する社会的活動性となる。

#### General Activity :

仕事早い、動作がきびきびしているなどの肉体、精



人格形成を規定する要因分析 (III)

図1 A・C型, B・D型, X型性格特性得点

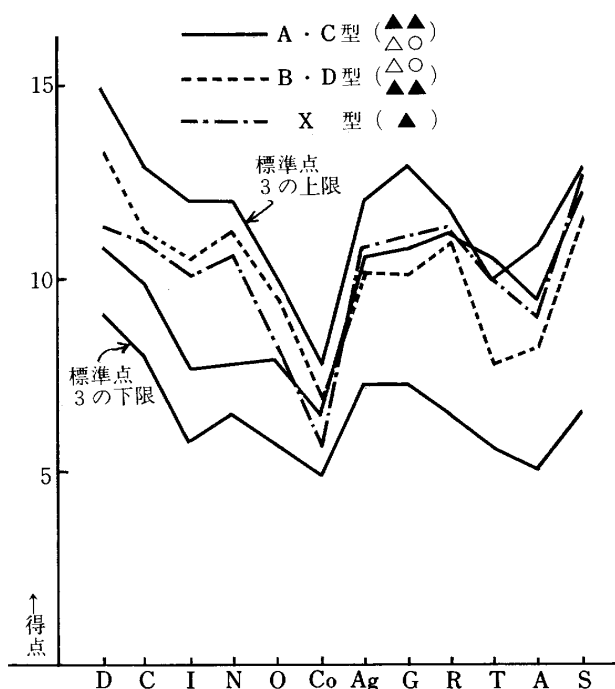
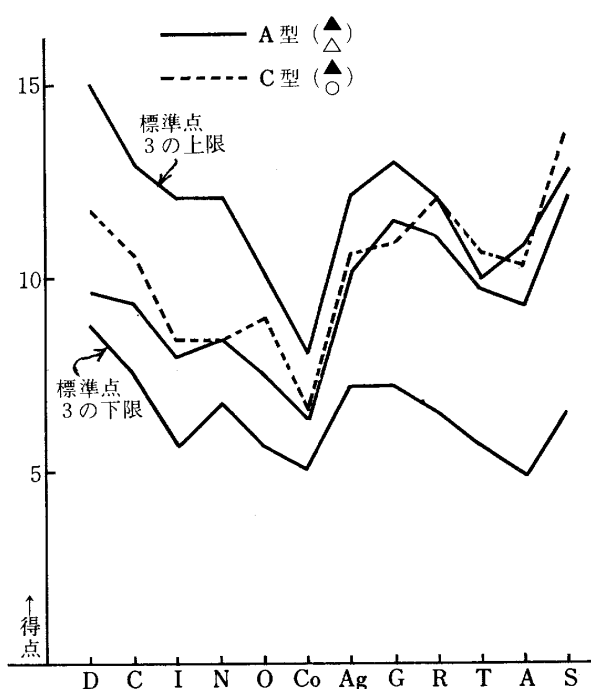


図2 A, C型性格特性得点



芸術専攻者はR, S 因子が高い結果が認められてはいるが(6), それにしても予想を上廻る得点であり, これは現代っ子の性格特性の一つと思われ, 年次別分析を続けて行なう必要がある(1965年~1971年の5年間についての性格特性の年次別変動については(6)を参照)。

表4 A・C型性格特性得点

性格特性 グループ別	D	C	I	C	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
A 型	9.79	9.61	8.46	8.68	8.14	6.64	10.29	11.46	11.14	9.93	9.36	12.21
C 型	12.27	10.38	8.68	8.60	9.24	6.76	10.57	11.00	11.89	10.49	10.24	13.57

※※ P<0.01 ※ P<0.05 ※  
従来の研究結果(7)によると, 弟をもつ姉の場合には年下の男子である弟の優位を認めた上での専制的関係が認められているが, 本研究においてもA, S 因子に示されるように, これを裏づける結果が示されているようである。しかしその現れ方は, 妹であるより弟の場合の方が, 社会的, 対人接触を求める人格として形成されているのは興味深い (A型 12.21, C型13.57)。

情緒安定性については, D 因子を除いては明確な有意差は認められないが, ややC型がA型より安定度が高い

4. <ふたりきょうだい> において, 末子の性差によって, 長子に性格上の差異が認められるか。

末子が妹 (A型), 弟 (C型) という性格によって長子に性格上の差が認められるかを示すのが, 表4, 図2である。

と思われる。女ふたりきょうだいで姉である場合は, 親和的, 調和的關係が多いとされるが(8), この情緒安定度からみれば, それを裏づけていると思われる。

5. <ふたりきょうだい> において末子である場合, 年上の同胞の性差によって, 性格上の差異が認められるか。

上記4と逆の場合であり, 末子であって年上の同胞が姉か, 兄かによって末子の性格はどのような影響を受けるかを示すのが, 表5及び図3である。

表5 B・D型の性格特性得点

性格特性 グループ別	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
B 型	13.91	11.50	9.85	11.50	9.82	7.62	11.00	10.68	12.12	8.42	8.91	12.15
D 型	12.76	11.30	11.06	11.27	9.61	6.73	9.49	9.76	10.18	7.68	8.39	12.30

※※※ P<0.001 ※※ P<0.01 ※ P<0.05

きょうだい二人とも女子である場合、姉の性格は妹に対し最も調和的、親和的であるが、姉をもった妹は、妹をもった姉に対し対立関係が多く、分離的であるとする結果が出ているが(9)、本研究においてもB型は曲線的にもかなり振幅が大きく、特にR因子(衝動性)においては、12.12得点という標準点3を超え、4の段階にまで達している。姉をもつ妹が何故このように高いR得点を示すかは今後の大きな問題であろう。

D型は一般的にB型に比べて安定した曲線の振幅を示

表6 A・B型、C・D型性格特性得点

性格特性 グループ別	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
A・B型	11.85	10.56	9.16	10.09	8.98	7.13	10.65	11.07	11.63	8.81	9.14	12.18
C・D型	12.52	10.84	9.87	9.94	9.43	6.75	10.03	10.38	11.04	9.46	9.32	12.94

表6のように本研究の調査結果に関する限りでは、両者間に有意な差を示す性格特性項目は認められない。

しかしこの結果は、YG検査に現わされる性格特性であり、きょうだい間の力動的な関係(調和的・親和的、

し、姉をもつよりも、兄をもつ方が社会的にも適応しやすく(Ag, Co, Oの安定)、衝動性も少ないようである。)

6. <ふたりきょうだい>において、同胞が女子の場合と男子の場合とでは、性格上の差異が認められるであろうか。

ふたりきょうだいにおいて、同胞が姉か妹の場合と、兄か弟の場合、この2要因によって性格形成上の規定を受けているであろうか。この結果を示すのが、表6、図4である。

上下関係等)においては、女ふたりきょうだいの場合が最も高い特点を示している(10)。

性格形成を規定する要因を静的に把握する立場と、動的な場合との2位相(Phase)の必要性を物語っている。

図3 B、D型性格特性得点

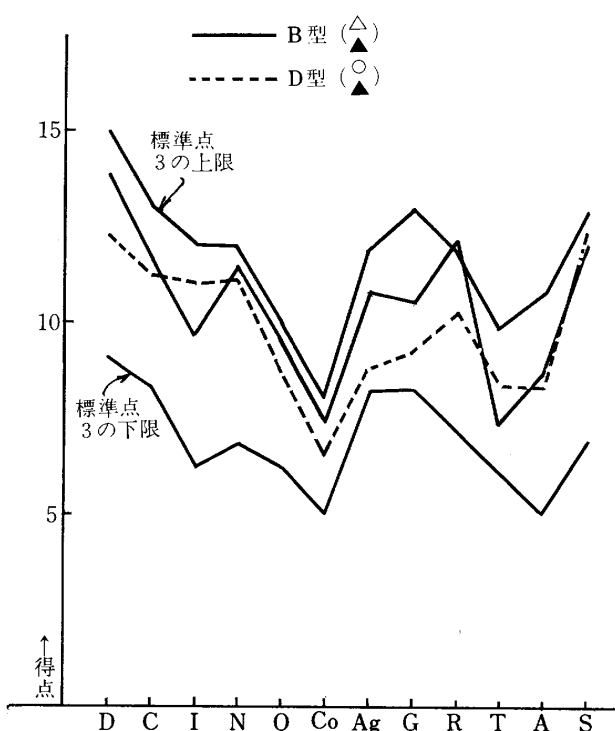
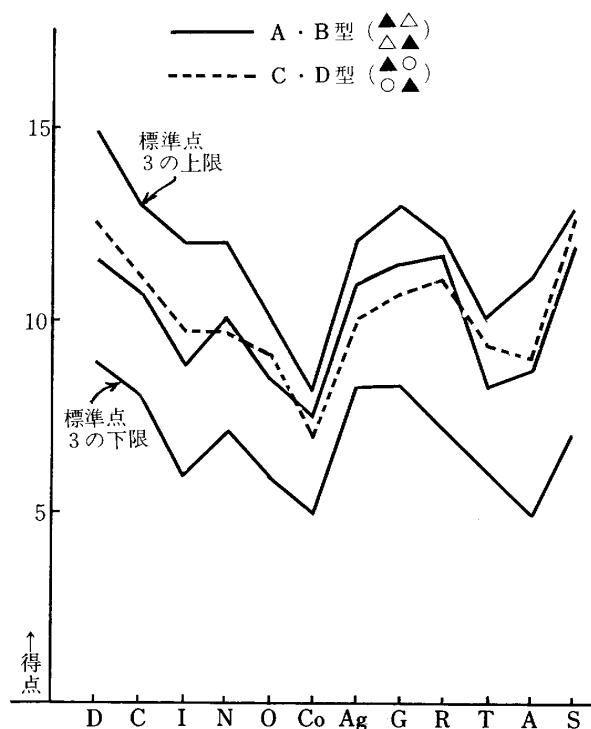


図4 A・B型、C・D型性格特性得点



#### IV 要約

本研究は芸術専攻者の性格特性を規定する要因に関する研究の第3報告である。

すなわち、芸術専攻者(女子)の<ふたりきょうだい>、及び<ひとりっ子>の性格特性を明らかにしようとした。

結果としては、<ふたりきょうだい>においては、

- (1) 長子と末子間には性格特性上一般にかなり大きな差異が認められる。
- (2) 末子が男子か女子かによって長子(女子)の性格上の差異がD, O, S特性に認められ、
- (3) (2)と逆に、長子が男子か女子かによって末子(女子)の性格上の差異がD, I, R特性に認められる。

### 人格形成を規定する要因分析（Ⅲ）

- (4) 対象者（女子）が、その同胞が女子である場合（姉、妹）と、男子である場合（兄、弟）とでは、両者間にほとんど性格上の差異が認められない。他の研究との関連で、ダイナミックな動的研究の必要性が今後の問題として残されている。
- (5) 〈ひとりっ子〉については、予想された程、統制

群や他の型との偏差は認められなかった。この結果は、ひとりっ子という要因が、20才前後という年齢的要因によって統御されてしまうのか、女子という更に芸術専攻者という要因によってオーバーラップされてしまうのか、今後の標本問題として残されている。

#### （注）

- (1) 高橋正臣；人格形成を規定的要因分析（Ⅱ）  
大分県立芸術短期大学研究紀要第 号
- (2) 辻岡美延；新性格検査法 1965
- (3) 詫摩武俊；きょうだいと性格 1970
- (4) 戸川行男他；性格の形成，性格心理学講座 1967
- (5) (2)に同じ

- (6) 高橋正臣；人格形成を規定別要因分析（Ⅰ）  
大分県立芸術短期大学研究紀要 第9巻
- (7) (3)に同じ
- (8) 〃
- (9) 〃
- (10) 〃